

そろばん収集

そろばんの奥深さを令和へ伝承



中村 秀男 さん

発祥は古代メソポタミア文明、
室町時代に中国から日本に伝来

敦賀市在住の中村秀男さんは、50年以上にわたり、そろばんの収集を続けています。ご自宅の一角には、これまでにコレクションした古今東西のそろばん約300点がずらりと並びます。「そろばんの起源は紀元前5000年頃のメソポタミア文明。線や溝の上に石を並べて計算したのが始まりです」と中村さん。コレクションには、当時の「線そろばん」「溝そろばん」を復元したものや、現代そろばんの原型とされる中国の「団子そろばん」など、世界のそろばんの歴史を伝える逸品が集められています。

近江（現大津市）で日本向けに改良されたそろばんが作られるようになり、江戸時代には「年貢そろばん」が普及。土地の面積や収穫量、金額を同時に計算できるよう工夫されておりました。年貢の取り立てに活用されていました。「古着屋そろばん」は両脇に小銭や印鑑を入れる引き出しがついており、寸暇を惜しんでそろばんをはじいた江戸商人の暮らしぶりが想像できます。沖縄では、藁の結び目の数で人夫や米の収穫量、戸数、金額などを計算する「わらざん」が独自に発達。地域性の違いにもそろばんの奥深さを感じます。

小学5年生からそろばんに親しみ、出張や旅先でそろばんを収集



約1万3000個の珠があしらわれた「そろばんみこし」
手前には1.7メートルのジャンボそろばんも

中村さんは小学5年生から珠算塾に通い、県立敦賀高校時代には珠算部長を務め、全国大会に出場した経歴を持ちます。高校卒業後は、敦賀商工会議所に勤務する傍ら、奥様の照美さんとともに珠算教室を経営。趣味として、そろばんの収集もスタートしました。出張や旅行先でコツコツ集めたコレクションは愛好家の間でも一目置かれるほどに。公民館、銀行、プラザ萬象などで展示を行ったこともあり、一般の人にも、そろばんの面白さを広く伝えていきます。



中国やロシアなど、世界各地のそろばんが並び、太古からの歴史をたどることができます

コレクションの中には、他ではお目にかかれない特注品もあります。「ジャンボそろばん」は、中村さんが遊び心から作った特注品で、127桁の計算ができ、全長1メートル70センチの特大阪。年始には7〜8人が横並びになり、はじき初めを行います。また、かつて豊臣秀吉が所有していたとされる「黄金そろばん」を模して真鍮で作ったそろばん、そろばん産地・奥出雲で作ったロシア式そろばんの復元品なども興味深い逸品です。

なかでも圧巻なのが、「そろばんみこし」。平成4年に敦賀珠算協会10周年を記念して作ったもので、約1万3000個のそろばんの珠があしらわれています。平成19年に中村さんが譲り受け、コレクションに加わり、ひときわ存在感を放っています。

「そろばんが作られた時代背景や作った人の思いを想像するのが、そろばん収集の醍醐味」と話す中村さん。平成23年度より、小学生3年生のみだった珠算学習の授業が4年生までの2年間に拡大されるなど、近年、そろばんの価値が見直され始めています。子どもの集中力を養うのももちろん、「指先を動かして計算することで高齢者にも脳の刺激となり、いいと思います」と、にこやかにその魅力を伝える中村さん。先人の知恵や思いが詰まったそろばん文化は、令和の時代にも受け継がれています。

この記事に関するお問い合わせ
中村秀男さん・照美さん
TEL 0770 (24) 0220